

令和元年度事業報告書（令和元年5月1日～令和2年4月30日）

（敬称略）

《事業の概要》

写真を通じて日本文化の進展に寄与することを目的に、令和元年度は次の事業を行った。

《中長期戦略企画室》

1. 文協未来構想のグランドデザインの構築とそのロードマップ作成
2. 社会に対して認知度向上策とステイタスアップ策の構築
3. 日本写真会館未来構想実現へのスケジュール化推進のための具体策の構築
 - ・四谷再開発完成以降に再検討
 - ・プロジェクトチームの結成によるスケジュール化、具体策の推進
4. 写館協との事業連携のための具体的内容の推進（総務部と連携）
5. 会員減少の中、会員維持・拡大策の検討・推進

《総務部》

1. 合同新年の集い（写館協担当）：令和2年1月29日（水）アルカディア市ヶ谷（東京）にて150名出席で開催
2. 平成30年度功労者表彰/令和元年度功労者の決定
 - ① 令和元年6月26日（水）第73回定時会員総会にて平成30年度功労者6名を表彰
 - ② 令和元年度特別功労賞1名・団体功労賞2団体・功労賞8名の表彰候補者選出、第3回理事会で承認、併せて令和2年春・黄綬褒章受章者1名を、第74回定時会員総会にて表彰
3. 成人年齢引下げに伴う成人式典年齢対応：公共団体情報の収集とその活用
4. 国際交流の推進
 - ① アジアフォト連合シンガポール会議の出席（令和元年9月）
 - ② WPCの認知度向上策とWPC2020への参画
 - ・ WPC2019入賞作品展の開催 フォトネクスト2019（令和元年6月18・19日 パシフィコ横浜）、ポートレートギャラリー（令和元年7月18～24日）、第73回定時会員総会、関東・近畿・中国ブロック大会
 - ・ WPC2020国内応募総数 約300点
 - ・ WPC2020ファイナリスト（各部門ベスト10）にウェディング部門でハセガワハセオ氏ノミネート、日本国内最高点賞に霜田一良氏選出 表彰式（ローマ）は新型コロナウイルス感染拡大のため令和2年9月に延期
5. 関係団体との情報交換と関係強化
 - ① 日本写真著作権協会との連携強化による文協会員の著作権意識の浸透
 - ・ JPSニュースの全会員への配布
 - ・ 月例会議への出席
 - ・ 文協全会員に対して新ID番号の設定
 - ② PSJ、JPS、APAとの連携
6. 文協加入団体の見直し：業務の効率化・経費節減のため、見直しを実施
7. 事業年度変更の検討
8. 日本写真会館テナント管理徹底：管理業務委託先を（株）サンスイから（株）ジェイコに変更（令和元年8月末）

《財務部》

1. 平成30年度の公益目的支出計画実施報告書、正味財産増減計画書等の内閣府へ7月末提出・受理
2. 財務月度管理の徹底：徳田経理顧問・三ツ澤財務部長・事務局と毎月実施
3. 令和2年度予算の策定：予算案の策定、第3回理事会（令和2年1月29日）にて議決承認

《事業部》

1. スクールフォトビジネスの構築
 - ① 第65回全国展「総理大臣賞」は、学生の部より選出
 - ② 第65回全国展学生の部の検証と第66回の企画推進
 - ・ 第66回全国展 学生の部 応援チラシ作成・配布（4.2千枚）
 - ③ 小中学校への写真教室の実施
 - ・ 令和元年7月23日（月）～24日（火）参加者37組64名 会場・金沢市いしかわ子ども交流センター
 - ・ 令和元年7月28日（日）参加者32名 会場・酒田市総合文化センター
 - ④ 高校写真部向け撮影セミナーのマニュアル化推進
2. 全国展入賞作品アーカイブ化の推進
 - ・ 目的：全国展認知度と自治体への紹介による文協知名度向上
 - ・ 実用化に向けてHPサーバーとの共有化による経費節減

《文化部》

1. 第68回「写真の日」記念講演（第65回全国展フォトコンテスト表彰式後に開催）
 - ① 令和元年5月28日（火）写真家 米美知子氏を講師に、東京都美術館講堂（東京・上野）にて参加約100名
 - ② 演題「美しい日本の情景 ～四季折々の自然美と一期一会の素敵な思い出～」（講師作品を映写・解説）
2. 全国展フォトコンテスト（全国写真展覧会）の実施
 - ① 第65回（表彰式・入賞入選作品展）

- ・ 応募数 : 3,099 点(対前回は 107%)、 応募件数 : 1,600 件(対前回は 114%)
- ・ 審査員 : 中村征夫、清水哲朗、米美知子、山崎裕二、堀恵介、奥田昇、田中秀幸、石毛良二
- ・ 入賞入選 : 入賞 26・入選 73 点・優秀賞 15 点 計 114 点
- ・ 表彰式 : 令和元年 5 月 28 日(火) 東京都美術館講堂(東京・上野)
- ・ 入賞入選作品展、会場・会期・入場者数

会場	会期	入場者数(前回は)
東京都美術館(東京・上野)	令和元年 5 月 28 日(火)~6 月 4 日(火)	2,481(85%)
富士フィルムフォトサロン札幌	令和元年 9 月 13 日(金)~18 日(水)	861(138%)
富士フィルムフォトサロン大阪	令和元年 9 月 27 日(金)~10 月 3 日(木)	2,623(95%)
富士フィルムフォトサロン福岡	令和元年 10 月 11 日(金)~16 日(水)	236(46%)
ポートレートギャラリー	令和元年 12 月 19 日(木)~25 日(水)	285(170%)
入場者合計		6,486(93%)

② 第 66 回 (募集・審査)

- ・ 募集期間 : 令和元年 12 月 5 日(木)~令和 2 年 2 月 7 日(金)
- ・ 応募料 : 組写真...2,000 円/組、 単写真...1,000 円/点、 学生の部...無料
- ・ 応募数 : 2,795 点(対前回は 90%)、 応募件数 : 1,394 件(対前回は 87%)
- ・ 審査員 : 水谷たかひと、米美知子、田中秀幸、奥田昇、小林かずとも
- ・ 入賞入選 : 入賞 26・入選 73 点・優秀賞 15 点 計 114 点

賞	氏名	都道府県名	部門	タイトル
内閣総理大臣賞	吉川 昌幸	福井県	第 3 部	新しい家族に
文部科学大臣賞	佐藤 隆史	東京都	第 1 部	春を呼ぶ雪さらし
文部科学大臣賞	吉住 牧人	愛媛県	第 2 部	ハプニング
日本写真文化協会賞	内原 誠美	奈良県	第 3 部	金管バンド引退前、最後の演奏!
下岡蓮杖賞	石田 尚治	鹿児島県	第 2 部	初日を迎える
奥田昇きもの写真大賞	松島 ツナオ	岡山県	第 3 部	花嫁

3. 写真の普及並びに写真文化・芸術に関する調査(一般や高校生に対して写真普及事業の展開)

① 山梨県高等学校写真連盟年間表彰(日本写真文化協会賞)

金賞 : 山梨県立北杜高等学校 小池美朝、 銀賞 : 山梨県立韮崎高等学校 岩崎結友
銅賞 : 山梨県立白根高等学校 志村咲南

② 日本写真映像専門学校卒業作品展、学年末作品展の表彰

日本写真文化協会賞 : 写真コミュニケーション学科・写真表現コース 中村実愛「アソビゴコロ」
写真コミュニケーション学科・営業写真コース 氏井彩登「山形の顔」
フォトファイン学科 西村楓「アイスクリームが溶けるまで」
日本写真文化協会奨励賞 : 写真コミュニケーション学科 三上湧真「双眸」

③ 西日本高校写真部選抜展

日本写真文化協会賞 : 兵庫県立松陽高等学校 川上もえ菜「セイレーンの戯れ」

4. ポートレートギャラリー運営

① ポートレートギャラリー展示作品申込み・実施状況(但し平成 31 年 1 月~令和元年 12 月迄の 1 年間)

展示申込み数 59 件 実施数 46 件 落選 13 件 (倍率 1.3 倍)

② 写真展開催実績 : 企画展 3 展、公募展 38 展 計 41 展(令和元年度)

※その他に公募展 6 展は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施できず

〈企画展〉・第 65 回全国写真展覧会「全国展フォトコンテスト発表展」: 12 月 19 日(木)~25 日(水)

- ・ 水谷たかひとスポーツ報道写真展「PRELUDE-序曲-」
- ・ オープニングパーティー : 1 月 6 日(月) 来場者約 200 名
- ・ 写真展 : 1 月 7 日(火)~22 日(水) 集客総数約 1,260 名
- ・ 写真館作画研究グループ展「人を撮る」は別項記載

〈公募展〉・主催 : 会員展 1、写真学校 1、関連団体 3、一般グループ 28、一般個人 5 計 38 展

- ・ 内容 : 風景 8(21%)、山岳 1(3%)、花 2(5%)、動物 1(3%)、鉄道 2(5%)、ドキュメント 1(3%)、人物 2(5%)、文化財 2(5%)、混在 19(50%)

5. ギャラリー使用料改訂

- ・ 従来 : 70 千円/週 但し 9 割程度が 35 千円(紹介・知人・写真家 50%割引を適用)
- ・ 改訂 : 50 千円/週 但し上記割引無し 平成 30 年度に適用すると対実績 500 千円の増収
- ・ 適用 : 令和 2 年 1 月より実施、但し文協会員・大学主催の学生展は引続き無料

6. 公益社団法人日本写真家協会賞受賞

- ・ 贈呈式 : 令和元年 12 月 11 日、アルカディア市ヶ谷(東京・市ヶ谷)
- ・ 表彰理由 : 平成 14 年、写真愛好家からプロ写真家の作品発表の場「ポートレートギャラリー」を設立し、幾多の優れた写真を世に送り出す活動を継続し、写真文化の更なる進展に寄与した功績による

7. 写真館 作画研究グループ展「人を撮る」の開催

- ・ 期間 : 令和 2 年 1 月 23 日(木)~29 日(水) ・ 会場 : ポートレートギャラリー(1/29 新年の集いにも展示)

- ・ 目的 : グループ相互の技術研鑽・映像表現の開拓、写真館の魅力アップとポートレートギャラリー活用促進
- ・ 内容 : 全国 11 グループ 97 名参加 1 月 23 日トークセッション開催 期間中の集客総数約 640 名
- 8. 全国 10 ブロックへの講師派遣の推進 : 各ブロック主催の講習会・研修会等の講師にかかわる補助を実施
- 9. 写真の祖 下岡蓮杖翁の顕彰
 - ① 慰霊祭 : 令和元年 6 月 14 日(金)下田公園蓮杖台(静岡・下田市)に参列(主催:下岡蓮杖を顕彰する会)
 - ② 墓参会 : 令和 2 年 3 月 3 日(火)染井霊園(東京・巣鴨) 参加 19 名

《広報部》

1. 文協の知名度・ステイタス向上のための活動推進…情報発信と受信窓口としての活動の展開
2. 機関誌「写真文化」の発行と更なる充実と全国会員からの情報収集の確立推進
 - ・ 7 月号より奇数月発行に変更(6 月、7 月、9 月、11 月、新春、3 月号の発行)※9 月号より「ザ・写真館」同梱
3. 写館協編集部との情報交換
4. 図録・記念誌の編集発行
 - ① 「写真文化」特集号「第 65 回全国展フォトコンテスト入賞入選作品集」の発行(令和元年 5 月発行)
 - ② 「文協 70 周年記念誌」企画編集(令和元年 6 月発行)
5. IT 関係
 - ① 月例会議のオンライン化(Web 会議)…経費節減・時間の有効活用を実現
 - ② 「第 56 回夏期大」の PR と次回応募拡大を目的に、Facebook での実施状況の即時配信
6. 広報関係
 - ・ ニュースリリース(全国展・新春企画展・会長年頭所感等)、会員名簿電子化の有効活用推進

《教育訓練部》

1. 第 56 回夏期写真大学講座の実施
 - ① 開催期間 : 令和元年 8 月 27 日(火)~30 日(金)
 - ② 会 場 : 東京工芸大学(中野キャンパス) ③ 受講者数 : 合計 28 名
2. 令和 2 年度夏期写真大学講座の休止
 - ・ オリンピック(8 月初旬)、パラリンピック(8 月下旬)開催時期と重なり、交通機関の混雑・宿泊料高騰のため、中止を決定。東京都に令和 2 年度「夏期写真大学」休止届けを提出
3. 技能検定(令和元年度より教育訓練部が担当)
 - ・ 「写真職種・肖像写真デジタル作業」1・2 級受験者減(100 名未満)による厚労省からの隔年実施要請に対する受験者数拡大策検討
 - ・ 「写真職種・学校写真作業」新設の検討(中央能力開発協会と連携)